

第28回 全国街路事業 コンクール応募資料



平成27年11月

応募者名：宮城県土木部

事業の名称：仙石線多賀城地区連続立体交差事業

実施都市名：宮城県多賀城市

※ 多賀城駅北側(写真左)では再開発ビル2棟の建築中である。

事業目的

多賀城市の中心市街地である多賀城駅周辺地域は、JR仙石線により南北に分断され、踏切を起因とした交通渋滞が著しい状況にあるなど、中心市街地の健全な形成が阻害されている状況にあった。

このため、多賀城駅付近約1.8km区間において鉄道を高架化することにより、4箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図るものである。

事業概要

事業名称：仙石線多賀城地区連続立体交差事業

路線名：JR仙石線

事業箇所：宮城県多賀城市東田中～伝上山

事業延長：約1.8km

幅員：高架部：9.86～13.60m（駅部：約22m）

事業費：約124億円

事業実施期間：平成16年6月30日～平成26年9月30日

本事業は、仙石線多賀城駅付近約1.8km（複線）を仮線方式で上下線分割施工により高架化し、多賀城駅は2面3線の旅客ホーム及び高架下駅舎を新設する。

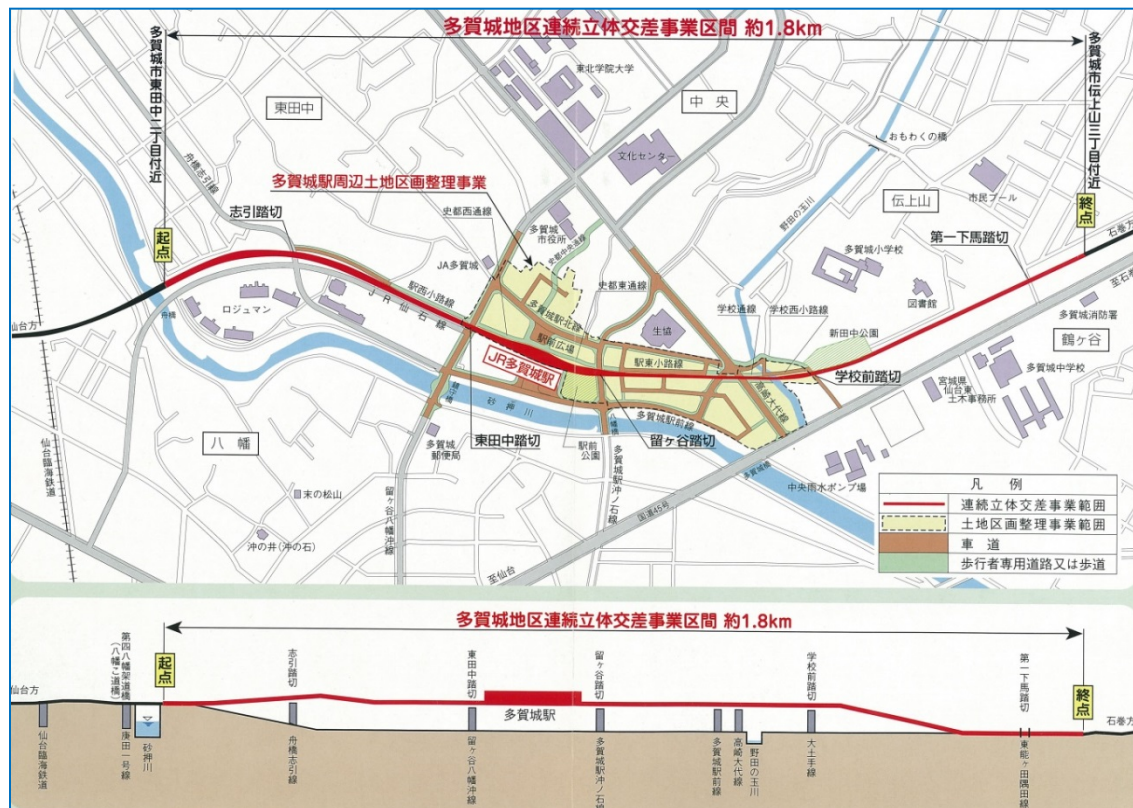
交差幹線道路は都市計画道路5箇所、市道4箇所の計9箇所、除却踏切は4箇所である。

東日本大震災による施設の被害及び工事の中断があったものの、平成24年4月に上下線の高架化切替え完了による踏切除却を行い、平成25年11月には新駅舎が全面開業し、平成26年9月末に事業が完了した。

事業位置図

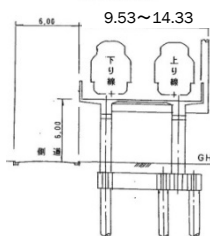


全体図（平面図・側面図・横断面図）



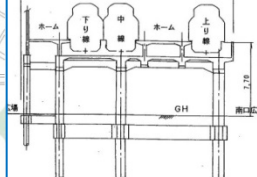
線路断面図

高架部

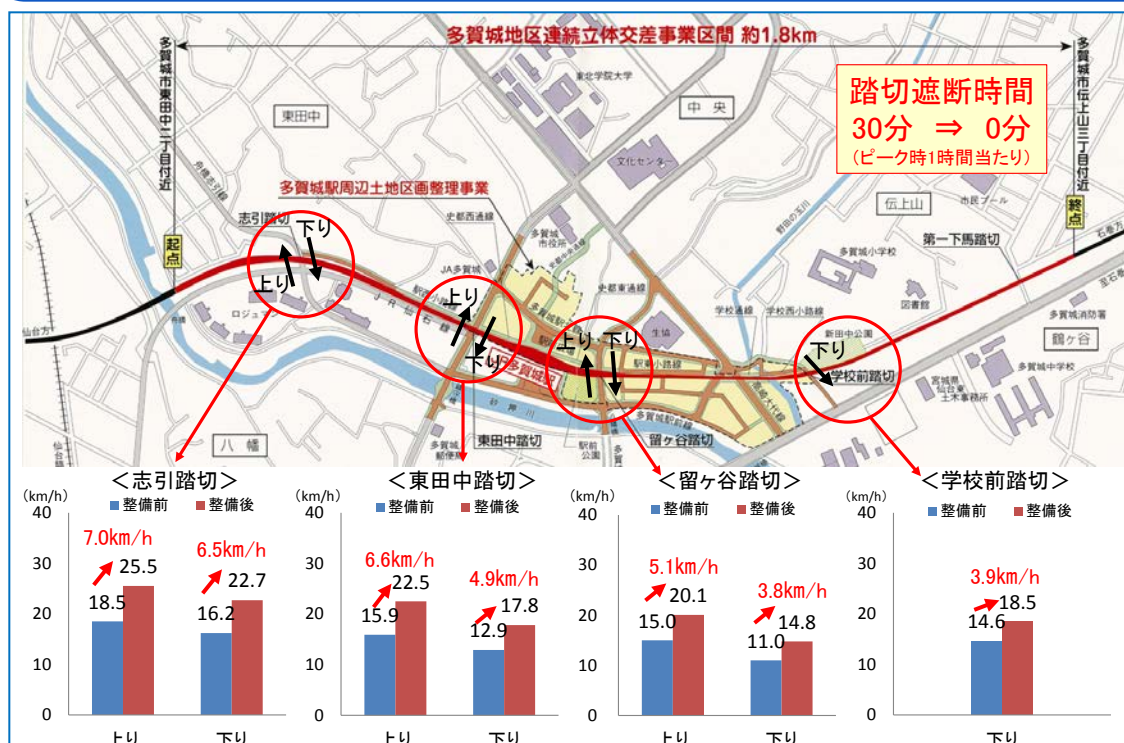


ホーム部

22.18 ~ 24.68



仙石線多賀城連立の整備効果アピール資料



図一 1 整備前後における旅行速度の変化

○事業概要

事業名：仙石線多賀城地区連続立体交差事業
路線名：J R仙石線
事業箇所：宮城県多賀城市東田中～伝上山
事業延長：約1.8 km
幅員：高架部：9.86～13.60m（駅部：約22m）
総事業費：約124億円
事業期間：平成16年6月30日～平成26年9月30日

○交通渋滞の緩和（図－１）

- ・踏切除却による遮断時間30分→0分
 - ・踏切通過時の旅行速度の改善された
- ①志 引：上下線とも7 km/h 向上
 - ②東田中：上り7 km/h・下り5 km/h 向上
 - ③留ヶ谷：上り5 km/h・下り4 km/h 向上
 - ④学校前：下り4 km/h 向上（一方通行）

「整備効果」

- ・ 4 踏切の解消による交通渋滞の緩和と踏切事故の解消
- ・ 駅周辺交通の円滑化および利便性の向上
- ・ 中心市街地の分断解消
- ・ 多賀城市が進める多賀城駅周辺土地区画整理事業等の関連事業による魅力ある「まちづくり」の促進

「その他の事業効果」

- ・幹線道路の整備により、東田中及び留ヶ谷踏切部の交通量が分散された。
- ・周辺への環境対策として、ロングレールや防音壁等の採用により、騒音が高架部周辺で最大55dBとなり、従前の最大値71dBを下回る結果となった。
- ・住民アンケートの結果、8割の方から踏切待ちによるイライラがなくなり、駅周辺の渋滞状況が改善されたと評価された。

真 写 前 業 事

東田中踏切



平成15年2月撮影

留ヶ谷踏切



平成15年2月撮影

事業後写真

留ヶ谷八幡沖線(旧東田中踏切箇所)



多賀城駅沖ノ石線(旧留ヶ谷踏切箇所)



高崎大代線(新設)



新駅舎



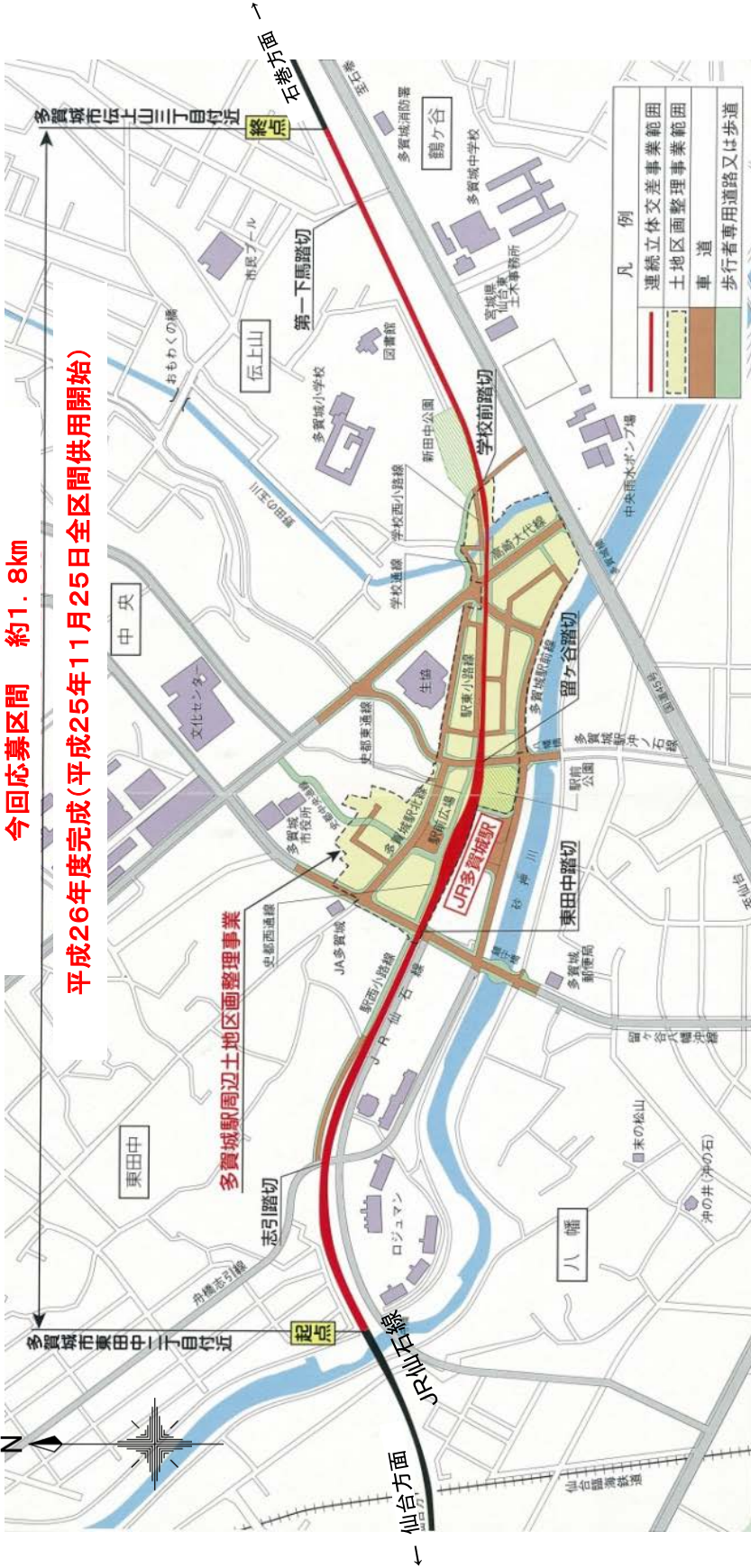
平成27年10月撮影

路線全体の進捗状況

JR仙石線多賀城地区連続立体交差事業

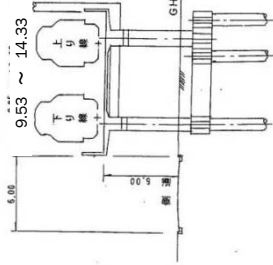
今回応募区間 約1.8km

平成26年度完成(平成25年11月25日全区間供用開始)



標準断面図

高架部



ホーム部

